

シリーズ・人権を考える

一般向け／約21分

反対する理由

結婚差別を乗り越えて



もうやめよう、
同じことを繰り返すのは。

監修のことば

一般社団法人 山口県人権啓発センター 事務局長 川口 泰司



これまでたくさんの結婚差別、恋愛差別の相談を受けてきました。私自身も大学生時代に部落出身ということによって交際相手の親族から反対を受けました。私自身の性格や人となりでなく、部落出身者という属性が問題とされました。属性を理由に反対されるということは、別の部落出身者でも相手の親族は反対していたということです。部落に対する偏見や差別意識と同時に、「娘には苦労させたくない」という「歪んだ親心」も伝わってきました。交際相手も長らく反対のなかで家族・親族との関係も悪化していきました。その姿を見ながら私は、差別があることで、結婚差別によって「不幸になっているのは誰なのか」ということをすごく考えさせられました。

結婚差別を考える時に大事なポイントとしては、「差別はする側も不幸にしている」ということです。部落に対する偏見や差別意識などにとらわれて生きていく生き方は、自分で自分たち自身の生き方を不自由にしています。

この作品では、部落出身者との結婚を認めてくださいというスタンスではなく、差別する生き方の不自由さを考えたいと思います。家族として本当に大切にしなければいけないものは何なのか、解放されるべきは誰なのかを共に考えたいと思います。

EIGAKU SYA

映学社作品

反対する理由 結婚差別を乗り越えて

企画意図

結婚とは「両性の合意のみに基いて成立」するものであると、憲法にも定められています。しかし、被差別部落出身者との結婚に関する差別意識は、現在も根強く残っている状況です。

交際相手が同和地区出身者の場合は結婚しないと考える人や、反対の意思を示す親族が未だに存在するのである。また、親や親族の中には、調査会社などを通じて、相手が被差別部落出身かどうか身元調査する例も少なくありません。

私たちの社会には、依然として家柄や出身などを重視する人がいて、こうしたことにこだわるものの見方や考え方が、部落差別（同和問題）を始めとする様々な差別を生む土壌となっています。

このドラマは、実際に起きた複数の事例をもとに描かれています。

作品の概要

■反発を示され…

歩美は被差別部落出身の大毅と交際し、将来についても真剣に考えている。父親・准一の誕生日、大毅との交際を両親に打ち明けると、返ってきたのは父親からの否定的な言葉だった。

親の許可を得ず結婚しようと言う歩美。「部落のことも解放運動のことも知って欲しい。もうちょっと向き合ってみよう」と、大毅は優しく諭すのであった。

■准一の過去

一方母親の恵子は、二人に歩み寄ろうと、大毅が活動の拠点としている解放運動の事務所にて、大毅と対面を果たす。その熱心で誠実な大毅の様子と、周りの人々の温かさに、「歩美が苦労するのではないかと心配だった恵子の心が動くのだった。

その後も独自で勉強し、部落問題への理解を深めた恵子は、准一への説得を試みる。

「お前は知らないんだ!」と、頑なな准一。実は、実妹の仁美は部落出身者の元へ嫁ぎ、両親から勘当され、生き別れ状態となっていたのだった。

「仁美は俺たちよりも部落の人間を選んだんだ。歩美と同じことはさせない」

■仁美の決意

恵子から仁美の存在を聞かされた歩美と大毅。二人は仁美に会ってみようと、居場所を突き止めて訪れる。

「私も仁美さんと同じ状況になるかもしれない」「覚悟はできている」と言う歩美に、「この状況になって初めて、どういうことかわかるんだ」と独り言のように言う仁美。

「俺は、お義父さんとの関係も諦めて欲しくないんです」と、歩美と両親との関係を慮る大毅を見て、仁美は「もう私みたいな思い、誰にもしてほしくない」と、歩美の実家へ行く意思を固めるのであった。

■再会

すぐ会える距離で暮らしていたにも関わらず、約30年ぶりの対面を果たした准一と仁美。「もうやめよう。同じことを繰り返すのは」「このままじゃ歩美もいなくなっちゃうよ?」

年齢を重ねた仁美の手を握り、見つめながら、会えなかった年月の重さと意味について考え込む准一。

「初めまして、高山大毅と申します。僕は部落出身で…周りには仁美さんみたいな思いをされた方がたくさんいたんです。歩美さんには、そんな思いをさせたくないんです」

真摯に訴える大毅と、「一緒に考えていこう」と言う歩美の言葉に、ゆっくりと頷く准一なのであった。

監修

監修：一般社団法人 山口県人権啓発センター
事務局長 川口 泰司

スタッフ

企画・制作統括：高木 裕己 撮影：伊藤 弘典
プロデューサー：今井 乃梨子 音声：北野 愛有
脚本・監督・編集：夏衣 麻彩子 制作協力：株式会社CLEO

制作・著作/株式会社 映学社

■DVD【カラー】※字幕版も収録されています

■2024年・映学社作品

- 株式会社映学社が製作する映像、DVD、ロゴ、イラスト、チラシ、ウェブサイト等全ての著作物の著作権は、映学社もしくは関係権利者等の著作権者に帰属しています。これらの著作物を権利者の許諾を得ずに、複製、転載、改変、譲渡、配布、公衆送信（送信可能化を含む）、放映等に利用することは原則として法律により厳しく禁止されています。
- 本チラシで紹介しているDVDは、DVDビデオディスクです。CD-ROMプレイヤーではご覧になれません。必ず市販のDVDビデオプレイヤーでご覧ください。なおDVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。詳しい再生上の取扱いについては、ご使用になるプレイヤー、テレビなどの取扱説明書をご覧ください。



(公社) 尼崎人権啓発協会
マスコットキャラクター あまびー

公益社団法人 尼崎人権啓発協会

〒660-0051 尼崎市東七松町1丁目23-1（尼崎市役所内 中館7階）

電話 (06) 6489-6815 ファックス (06) 6489-6818

ホームページ <https://hcg22501.wixsite.com/hcg22501>